

2) 回収不能の予測要因

全体としてみると、独立変数として投入した13の変数のうち死亡以外の理由での回収不能と有意な関連がみられた変数は、第1回追跡調査が4つ、第2回、第3回追跡調査がそれぞれ2つで、少なかった。いずれの追跡調査においても生活習慣、社会的ネットワークに関する変数では、有意な効果をもっている変数は社会参加（第1回追跡、第3回追跡）と就労（第2回追跡）だけであった。

各追跡調査についてみると、第1回追跡調査では、初回調査の年齢、日常生活動作障害、抑うつ症状、社会参加の4つの要因が死亡以外での回収不能と有意に関連していた。すなわち、高齢、日常生活動作に障害のある者、抑うつ症状が強い者、社会参加を月1回未満しかしていない者では死亡以外で回収不能となる割合が高かった。

第2回追跡調査および第3回追跡調査においても、死亡以外の理由での回収不能と強く関連していた要因は第1回追跡調査と類似していた。第2回追跡調査では日常生活動作障害のある者では有意に死亡以外で回収不能となる割合が高かった。社会参加についても、社会参加を月1回未満しか参加していない者では有意ではなかったが、死亡以外の理由で回収不能となる割合が高い傾向がみられた。第3回追跡調査では、社会参加を月1回未満しかしていない者では有意に死亡以外の理由で回収不能となる割合が高かった。日常生活動作の障害についても有意ではなかったが、死亡以外の理由で回収不能となる割合が高い傾向がみられた（表2）。